授業の視点１　考える必然性や切実感のある発問の在り方

１年　資料名　「１２０てんのそうじ」

ねらいに迫るための中心発問

ねらい：外的要因（褒められる）がなくてもみんなのために働くことの大切さに気付くようにする。

〈ねらいに迫るための中心発問〉

本時

行動の理由を問う
中心発問
「褒められる前からなぜゆうやさんは１２０点の掃除をしたの？」

別案

・「もし先生が褒めてくれなかったらゆうやさんは１２０点の掃除をすると思う？」
・「掃除はやりたい人だけやればいいよと先生に言われたら、どうすると思う？」など

支援
時系列から遡る読み取り

ゆうやさんが１２０点の掃除をした理由を時系列から遡るよう読み取った。

褒められる前から掃除をしていたということに児童自身が気付き、驚きや疑問を感じる切実な中心発問につながった。

成果
他律段階の一年生が、褒められる以外で頑張れる理由を一年生なりに考え、働くことは自分のためだけではなく他の人のためにもなるということに気付けたのではないかと考える。

別案中心発問にすれば・・・
ゆうやさんが褒められなかった場合などを想像し多角的な見方で考えられ、掃除をする意義や働くことのよさについてより本時のねらいに迫ることができたのではないかと考える。

３年　資料名　「ぼくのボールだ」

ねらいに迫るための中心発問

ねらい：公平と不公平について考えさせ、誰に対しても公平に接することの大切さに気付かせる。

〈ねらいに迫るための中心発問〉

本時

行動面から迫る中心発問
「なぜぼくはまちがったことをしたのかな、と思い始めてきたのでしょう。」

支援
登場人物になったつもりで・・・

自分自身がぼくになったつもりで「まちがっている」、「まちがっていない」の両方の気持ちを考えさせた。

成果
ぼくがたかしに対して不公平な行動を取っていたことに気が付くことができた。

まさと君にパスしないと勝てなかったと思います。

本当はたかし君のボールだったと思います。

課題

ロールプレーイングを取り入れれば・・・
「サンキュー。」と言われたたかしくんの気持ちに、より共感できたように感じた。さらに、たかしくんの気持ちについても児童同士で交流することもできたと考える。

補助発問を工夫すれば・・・
ぼくの行動だけでなく、たかし・まさと・こうじの行動にも目を向けさせ、４人の行動の良さや問題点を探していくことで、公平・不公平の道徳的価値を広い意味で捉えることができると考える。

６年　資料名　「ロレンゾの友達」

ねらいに迫るための中心発問

ねらい：互いに信じ合うことが大切であることに気付かせる。

〈ねらいに迫るための中心発問〉

本時

心情面から迫る中心発問
「かしの木の下で話し合ったことをロレンゾには黙っていたとき、三人はどんな気持ちだったのだろう。」

別案

行動面から迫る中心発問
「かしの木の下で話し合ったことを、三人はなぜ黙っていたのか。」

支援
心情バロメーターの活用

三人の気持ちが「とても楽しい」というレベルに達しないことを心情バロメーターで表した。

成果
気持ちの変化が視覚的に捉えられ、心から喜べなかった原因を考える支援になり、信頼することの大切さに気付かせることができた。

行動面から迫る中心発問にすれば・・・
本当の友達についての多様な価値に触れさせることで、本時のねらいに迫ることもできたのではないかと考える。